

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

9月18日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」、の3カ所で、表層から水深30mまで3層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、ザラボヤの浮遊幼生が確認されませんでした（表1）。

表1：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温	クロロフィル	ザラボヤ		ユレイボヤ		その他のホヤ		ヒトデ		フジツボ	
				個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ	個	個/トッ
かみ	0~10m	22.0~22.1	0.3~0.4							1	2.5		
	10~20m	21.3~22.4	0.3~1.0							2	5.0		
	20~30m	17.1~21.2	0.8~1.7							0	0		
なか	0~10m	22.0~22.1	0.3~1.0							2	5.0		
	10~20m	22.0~22.4	0.3~0.6							0	0		
	20~30m	19.3~22.1	0.5~1.1							0	0		
しも	0~10m	22.0~22.1	0.3~0.4							1	2.5		
	10~20m	21.9~22.3	0.3~0.7							1	2.5		
	20~30m	17.9~21.9	0.5~1.7							1	2.5		

【参考資料】

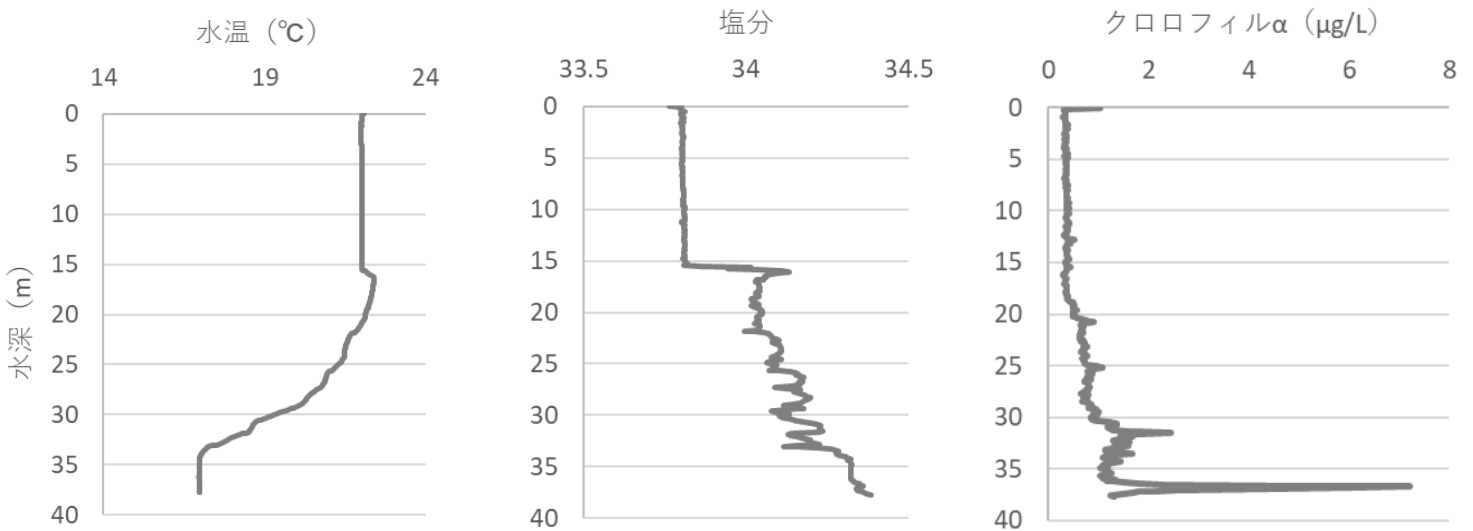


図1：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ付着量調査結果

- 部会の桁に設置したザラボヤ付着プレートおよび試験籠にザラボヤの付着が確認されました。
- 試験籠の付着数は **38 個体** で、各段の付着数は 0~4 個体、平均付着数は 2.4 個でした (図 1)。
- 籠の上面に 26 個体、側面に 3 個体、下面に 9 個体が付着しており、**上面に付着が多いこと** がわかりました (図 2：計測場所の概念図)。
- 部会の桁に設置しているザラボヤ付着プレートにもザラボヤ 1 個体の付着が確認されましたが、付着量は少なく **8月中旬から9月中旬のザラボヤ幼生の発生は少なかったもの** と考えられます。

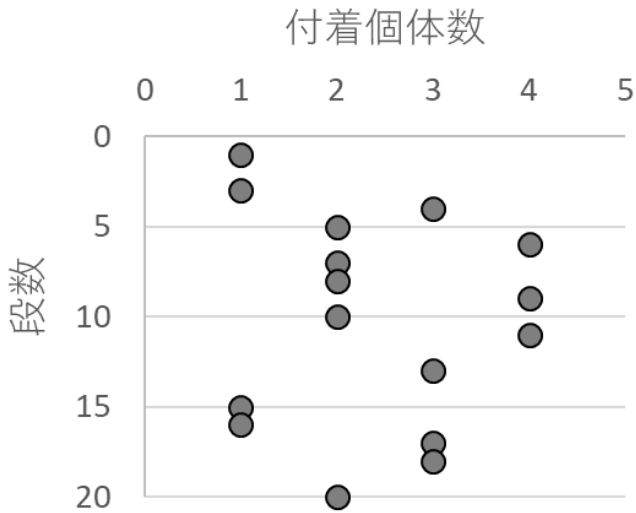


図 1：試験籠におけるヨーロッパザラボヤの付着数と分布。段数は数字が小さいほど水面側を示しています。

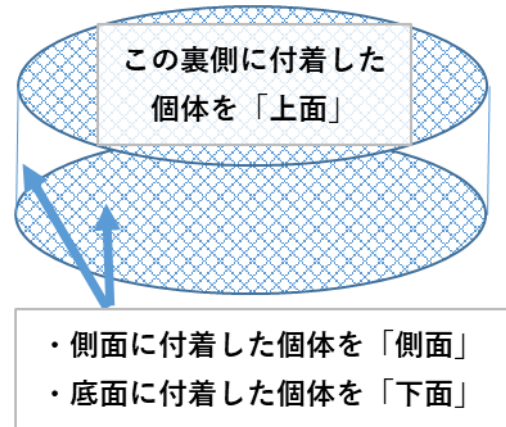


図 2：試験籠の各段の計測箇所の概念図。

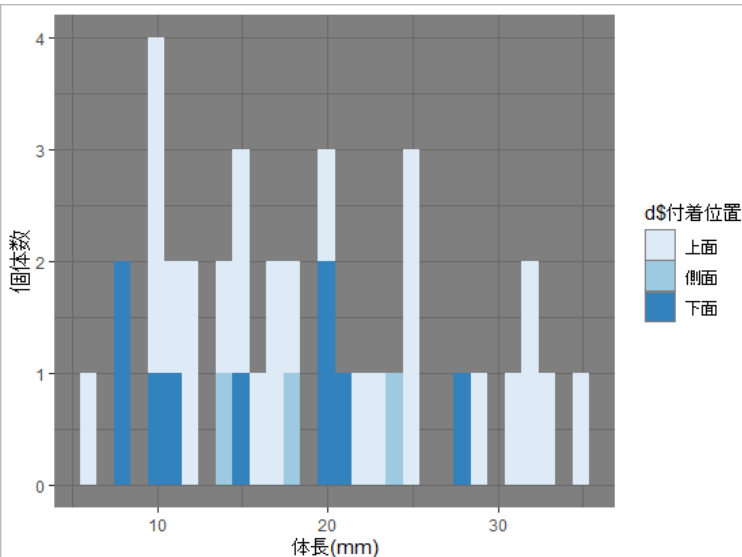


図 3：ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所の関係。

◎ヨーロッパザラボヤの体長と付着場所 (図 3)

- 上面：主に 10~35mm の小型~大型の個体が付着。30mm 以上の大型個体は上面だけに見られました。
- 側面：20mm 前後の中型個体のみ付着。
- 下面：主に 10~20mm の小型個体が付着。

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

※この調査は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

※調査結果は中央水産試験場 HP から確認できます。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html>